印西市地域公共交通計画（抜粋）

（計画２９ｐ）

施策５　地域公共交通を支える新たな仕組みづくり

【現状と課題】⑨地域公共交通を支える仕組みの不足（p.17）

【実施主体（連携協力）】印西市、印西市地域公共交通会議、（交通事業者）

【対象地域】市内全域　成田線沿線地区　千葉ニュータウン地区　在来地区

【取　組】

５－１　交通政策推進体制の充実

○　交通政策を広くまちづくりや都市政策の一環として位置づけ、地域公共交通のさらなる充実を図るため、交通政策課を中核として公共交通施策の推進及び専門人材の育成に努めるとともに、現状の交通体系にとらわれず、中長期的な視点から印西公共交通ビジョンの実現に向けた取組を進めます。

５－２　地域公共交通会議の柔軟な運用

○　事業者や地域住民など様々な主体が関わる公共交通の多様な課題に機動的に対応するためには、テーマごとに関係者が意見交換や情報共有する場を設け、課題解決力の向上を図る必要があります。

○　本計画で掲げた施策を着実に実行するためには、評価指標の達成状況や進捗状況を適切に把握するとともに、モビリティデータに基づく課題の共有やアイデア出し、改善策を利用者の視点に立って検討する必要があります。このことから、交通事業者の保有するデータも含め、必要となる情報の共有化を図るとともに、地域公共交通会議を柔軟に運用し、公共交通全般やモニタリングなど個別のテーマに関する分科会を必要に応じて立ち上げます。

（計画３４ｐ）

４　計画の達成状況の評価

本計画の実現に向けて、以下の評価指標を設定し、達成状況の評価を行います。また、年度ごとの中間目標については、各指標の目標値に対する現状値の 20%の増加とし、毎年度、地域公共交通会議でモニタリングを行います。

指標１　公共交通に対する満足度

	現状（令和７年度）		目標（令和12年度）
公共交通の満足度	24.7%	⇨	35%

※市民満足度・重要度調査で「満足」と「やや満足」を合計した数値（実施年度ごとに評価を実施）

指標２　公共交通サービスによる人口カバー率

	現状（令和７年度）		目標（令和12年度）
利用人口のカバー率	100%	⇨	100%

※デマンド型交通などの補完交通を含んだ数値（一般タクシーを除く）

指標３　ふれあいバス及び民間補助路線の年間収支率

	現状（令和６年度）		目標（令和12年度）
ふれあいバスの収支率	13.9%	⇨	18%
民間補助路線の収支率	36.9%	⇨	45%

※ 路線別の収支率と、各補助路線１台当たり及びふれあいバス１台当たりの年間運行経費については、地域公共交通会議でモニタリングを行う。（p.30を参照）

指標４　ふれあいバス及び民間補助路線の年間利用者数

	現状（令和６年度）		目標（令和12年度）
ふれあいバスの利用者	275,902人	⇨	330,000人
民間補助路線の利用者	218,592人	⇨	260,000人

※ 路線別の利用者数については地域公共交通会議でモニタリングを行う。

指標５　地域間幹線バスの平日運行本数

	現状（令和７年度）		目標（令和12年度）
地域間幹線の運行本数	139便	⇨	現状維持以上

※神崎線、小林線、印旛学園線、六合路線、宗像路線の合計 。路線別の運行状況については地域公共交通会議でモニタリングを行う。

指標６　市内鉄道駅の１日平均利用者数

	現状（令和６年度）		目標（令和12年度）
市内５駅の利用者	59,112人	⇨	60,000人

※ 駅別の利用者数については地域公共交通会議でモニタリングを行う。

（計画３５ｐ）

５　計画の推進体制と進行管理

（１）推進体制

基本目標１の施策１・施策６で示したように、地域公共交通会議を柔軟に運用し、本計画で掲げた施策の着実な実行に努めます。

（２）進行管理

地域公共交通会議において、目標に応じた評価指標の達成状況や取組の進捗状況を確認・評価し、計画（ＰＬＡＮ）→実施（ＤＯ）→評価（ＣＨＥＣＫ）→改善（ＡＣＴＩＯＮ）のＰＤＣＡサイクルにより計画の進行を管理します。

また、前節で記載した中間目標の評価についても、前年度の達成状況の評価（ＣＨＥＣＫ）として実施し、次年度の計画（ＰＬＡＮ）に活用します。

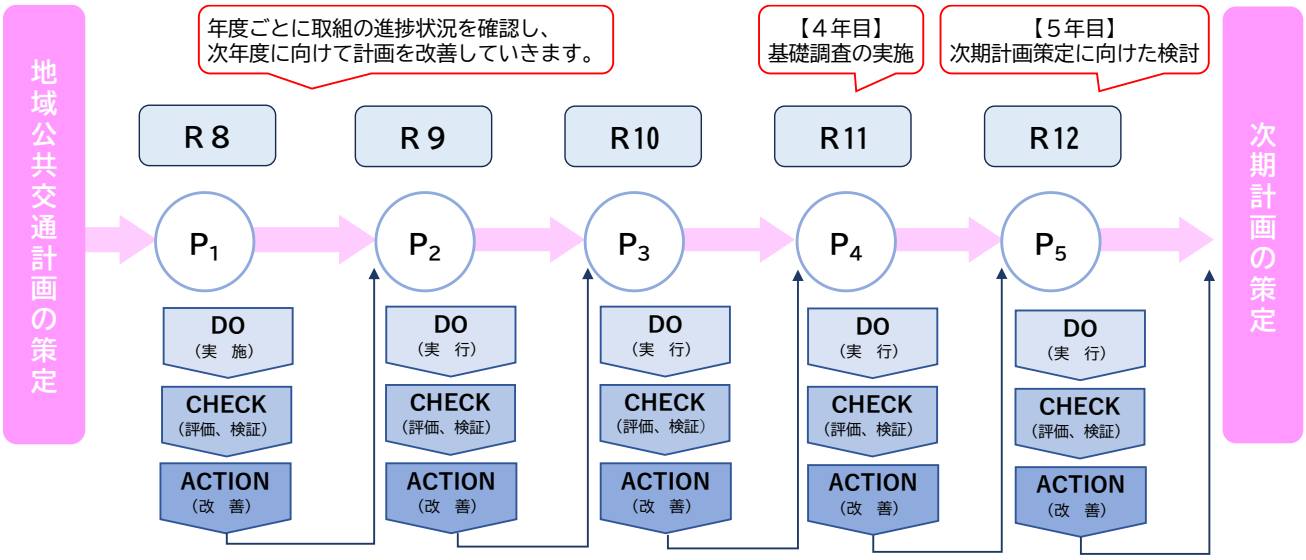


図　本計画におけるＰＤＣＡサイクルの展開